

トルコ為替週報

2022年2月22日 | みずほ銀行欧州資金部

MIZUHO

＜過去1週間の動き＞

(2月15日～2月21日)

USD/TRY: 13.5600～13.6800

TRY/JPY: 8.40～8.50 (参照値)

過去1週間のトルコ・リラ相場は方向感を欠いた横ばい。対ドルよりも対円の方がその傾向は顕著に読み取れたが、対円では軟調気味の横ばいとはっきり言うことができた。対円での軟調が意味するところは、この間、金融市場全般が、ウクライナ/ロシア情勢に注目し、リスク回避姿勢を強めていたということで、円高の他、世界的な株安、金の堅調などにリスク回避傾向を読み取ることができた。もう一点、ウクライナ/ロシア情勢がリラに与えた影響としては、市場の関心をリラから逸らせるという効果もあったように思われた。図らずも、17日、エルドアン大統領が「金利に関する議論は大幅に鎮静化した」「リラ為替は落ち着いている」と述べたが、同発言にも一定の理はあっただろう。まず、トルコに関しては、物価動向などに鑑みて政策金利の先行きを議論することにもはや意味がないとの考え方に加え、ウクライナ/ロシア情勢が金融市場の耳目を集めることで、トルコ金利に対する関心が少なからず奪われたという経緯もあっただろう。実際、同発言の直後に発表されたトルコ中銀金融政策委員会の結果は、直近物価の高騰(1月CPIは前年比+48.69%)を他所に政策金利は14.00%に据え置かれたが、この決定自体、市場の予想通りで、ほとんど材料視されなかった。なお、この間、日付が変わる前後の時間に、ドル/リラが奇妙な値動きを見せる局面が散見されたが、取引の時間帯、出合いの件数、出合いと出合いの間隔(注1)などから、何者かが意図的に取引水準をリラ高方向に押し上げようとした可能性が考えられた(注2)。

＜過去1週間に発表された主要経済指標等＞

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
2/15	8:00	財政収支(TRY)	1月	+30.0bn		-145.7bn
2/17	11:00	1週間物レポ金利		14.00%	14.00%	14.00%
2/21	8:00	外国人観光客(前年比)	1月	+151.4%		+170.6%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

＜向こう1週間の見通し＞

(2月22日～2月28日)

USD/TRY: 13.600～13.900

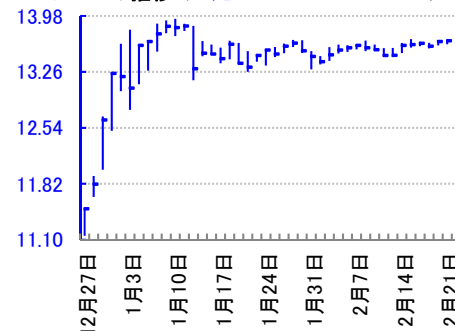
TRY/JPY: 8.25～8.45

向こう1週間のトルコ・リラ相場は軟調推移継続を予想。上述の通り、この間、リラの値動きに最も大きな影響を与えたのは、ウクライナ東部における地政学的緊張だった。これには、トルコの高インフレ/低金利から市場の目を逸らす形でリラの下支え要因となった面もあったが、リラへの影響としては、やはり押し下げ要因の色彩の方が圧倒的に濃かっただろう。仮にロシアがウクライナに侵攻すれば、まず考えられることは天然ガスを始めとした燃料価格のもう一段の高騰だが、これは燃料輸入国であるトルコにとっても更なる物価押し上げ要因。また、トルコ/エルドアン大統領にとって悩ましいのは、NATO加盟国の一員として、ロシアとの距離感をどう取るかという判断。米/EUと歩調を合わせて対ロ制裁に加わることになれば、シリア内戦を挟んで微妙な均衡状態にある両国の関係は、一気に緊張感を増すことになる。ロシアからの燃料供給を制限される可能性だけでなく、ロシアからの観光客の流入が止まることも、トルコ経常収支には大きな痛手となろう。つまり、物価、貿易収支(燃料輸入額増加)、経常収支(加えて観光収入の減少)など、ウクライナ/ロシア情勢の悪化は様々な意味でトルコ経済の先行きにマイナスのベクトルを示している。実際、21日の欧州時間夜になって、プーチン大統領がウクライナ東部2州(トネツクとルガンスク)を独立国家として承認したが、この結果、(独立国家の要請を受けて)ロシアが正規軍を両国(州)に駐留させる可能性が高まったことなどが嫌気され、リラは、ルーブルなどと共に下押ししている。

＜向こう1週間に発表予定の主要経済指標等＞

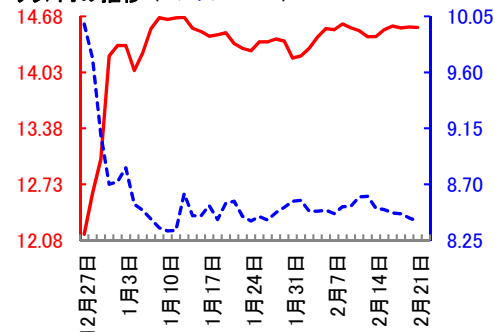
月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
2/22	7:00	設備稼働率	2月			77.6%
2/28	7:00	GDP(前年比)	Q4			+7.4%
	7:00	貿易収支(USD)	1月			-6.79bn

USD/TRYの推移(日足/ロンドン 7:00～17:00)



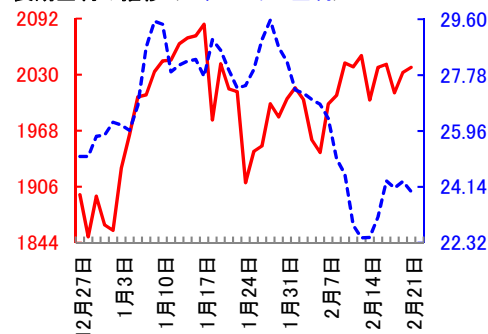
バスケット/リラの推移(トルコ中銀公示)

リラ/円の推移(ロンドン 17:00)



株式市場の推移(ISE 100種指数)

長期金利の推移(5年スワップ金利)



(資料: トルコ中銀/トムソンロイター/ブルームバーグ)

トルコ関係主要経済指標

1週間物レポ金利		14.00%
成長率(GDP/前年比)	Q3	+7.4%
失業率	12月	11.2%
消費者物価(前年比)	1月	+48.69%
鉱工業生産(前年比)	12月	+14.4%
小売売上高(前年比)	12月	+15.5%
貿易収支(USD)	12月	-6.79bn
経常収支(USD)	12月	-3.84bn

(注1) 誤発注であればほぼ一瞬のうちに値が飛ぶはずだが、数秒～数分間隔で断続的に不自然な出合いが続いた

(注2) 18日のアジア時間朝に対ドルで13.5175まで、対円での8.51(参照値)までのリラ高を見ている

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。